

CIEC 第60回研究会報告

テーマ： 外国語教育における e-Learning の最新動向
日時： 2006年3月26日(土) 13時30分～16時30分
場所： 大学生協会館 201-203 会議室
司会： 吉田晴世 (大阪教育大学)
参加人数： 32名 (講演者を含む)

「オープンソースを活用した e-Learning 環境構築の動向概観」

上村 隆一 (北九州市立大学国際環境工学部)

「外国語教育における Podcast の利用」

西嶋 愉一 (金沢大学外国語教育研究センター)

「Moodle を利用したコンテンツ・ベースの授業実践と情報コミュニケーション共有のあり方」

野澤 和典 (立命館大学情報理工学部)

はじめに

学びの IT インフラとして定着した感のある e-Learning は、今新たな転換期にさしかかっている。とりわけ、外国語教育においては、商用の WBT に加えて、オープンソースによる学習履歴管理、教材作成、双方向通信の取り組みがにわかに活気づいてきた。今回の研究会では、まず、ブログとコンテンツ自動更新サービスの組み合わせ、オンライン学習ポータルサイトとストリーミングサービスの組み合わせなど、各方面で行われている新たな試みについて概観し、その後、大学における外国語教育の現場で実際に活用されている先生方の具体的な事例報告をいただくことにした。

以下、当日の発表順に、各講演者自身がそれぞれの報告を要約してまとめ上げた内容を示す。

「オープンソースを活用した e-Learning 環境構築の動向概観」

上村 隆一 (北九州市立大学国際環境工学部)



最近1, 2年間のe-Learningの新たな展開として、次の3点が挙げられる。

- (1) 商用プラットフォームからオープンソースLMS/CMS利用への移行
- (2) 教材コンテンツ制作の自由度拡大への動き
- (3) 新たなオンライン学習環境の模索

まず、(1)については、商用プラットフォームであるWebCT, Blackboardなどの多額なライセンス料問題や教材コンテンツ制作環境の問題があって、MoodleというフリーウェアのCMSが俄然注目されている。Moodleの特徴は、サーバとクライアントPCの両方がLinux, Windows, Mac OSすべての環境に対応し、使用者ライセンス数の制限が無く、しかもオープンソースであるが故に、レイアウト、機能の追加など仕様変更が自由に行える点である。

次に、(2)については、LMS/CMSの国際標準規格であるSCORM2004において、学習コンテンツの相互運用性のみならず、教材の配列とレイアウト、学習順序の設定、ナビゲーション機能、コース管理者から学習者へのフィードバック情報提供等の自由度が大幅に拡大した。これによって、学習コース担当者は、LMS/CMS固有の仕様上の制約に縛られることなく、柔軟にコンテンツ作成・管理が行えるようになった。ちなみに、Moodleの最新版では、SCORM2004への対応がなされている。

最後に、(3)については、デジタル音楽プレイヤーなどの携帯端末を学習機器として位置づける、Podcastの急速な立ち上がりがe-Learningの新たな可能性を開く突破口として、教育者の関心を集めている。この「いつでもどこでもデジタル教材で学

習」の仕組みと具体的な外国語教育への応用については、この後の講演内容と重複するので、割愛させていただく。

さて、今後のe-Learningに関する課題としては、下記の3点が考えられる。

- a. 学習環境の多様化への対応
- b. 学びあいの動機付け
- c. 教材作成ツールの充実と共有化

上記のうち、a.はすでにインターネット利用環境の主役がPCから携帯端末に移行しつつある現状を踏まえ、オンライン学習の「脱PC」化を推進していく必要がある、ということである。また、b.は従来の教師-学生・生徒の「縦の関係」を軸にしたe-Learningのシステムのみならず、学習者相互の教えあい、学びあいという「横の関係」を具現化するシステムが重要な意味を持つ。そして、c.は現在主にヨーロッパのEC域内で試みられているように、ネットワーク環境の相互運用性を高めながら、複数の教育機関でe-Learning向け教材の作成ツールおよびコンテンツの共有化プロジェクトを推進すべき時期が来ている、という意味である。このプロジェクトをCIECが主体となって取り組むとすれば、CIEC版Learning GRID実現の可能性も生まれるであろう。

「外国語教育における Podcast の利用」

西嶋 愉一 (金沢大学外国語教育研究センター)



Podcastは、RSSを使用した音声・動画配信の形態である。もともとはiPodでネットラジオを聴くための仕組みとして作られたものであるが、配信するのも配信を受けるの

も簡単なこと、最新のものを自動で取り込む仕組みがあること、音声はダウンロードして聴くのでPC以外のデバイスに持ち出すのが簡単なことなどから、急速に普及している。

これまで受信設備を持たなければ視聴できなかった海外の放送局(CNN、ABC、NPR、BBC等)の音声あるいは動画の番組や、海外の大学が配信する講義などがPodcastで配信されており、外国語学習に有効なコンテンツとして活用することができる。

Podcastでは音声(MP3/AAC)だけでなく、動画(MPEG-4/H.264)や文書(PDF)も配信することができる。外国語教育への活用としては、音声教材や授業に関する資料を配布する、といった用途が考えられる。テープをダビングする手間なしに、サーバに音声を置いておくだけで受講者に音声教材を配布できるので、音声を聞いて繰り返し学習する目的であれば、LL教室などの設備に縛られることなく、場所を選ばずに学習することが可能になる。

Podcastを配信するには、Podcastに対応したblogサービス(seesaaブログ、ココログ@nifty等)を使うか、Podcast対応のblogサーバ(Movable Type等)を使うのが通常の方法であるが、いずれもblogのオプション的な機能なので、授業に使うためにはよりシンプルなものが望まれる。そこで、発表者が運用しているWebサーバ上に、Podcast配信専用のサーバを構築することにした。Podcastに特化して、音声・動画ファイル名と、説明文などの項目を入力するだけで配信できるよう作成したものである。

現在、このサーバは試験運用中であり、今後、さらに改良を加えつつ、授業での活用を行っていく予定である。

「Moodle を利用したコンテンツ・ベースの授業実践と 情報コミュニケーション共有のあり方」

野澤和典(立命館大学情報理工学部)



Moodle (ムードル) は、オーストラリアの Curtin University of Technology で Web 管理者であり、WebCT のシステム管理者であった Martin Dougiamas 氏によって 1990 年代に開発されたもので、機能が豊富で、かつ無料のオープンソース教育管理コースウェアであり、Web サーバについて基礎的な知識と管理技能があれば、オンライン・コミュニティを簡単に構築できて教育活動に利用できるシステムで、近年世界中の外国語教育関係者を含む多くの CALL や e-learning の研究・実践者が利用してきている。演者は、以前から国際学会での報告を聞いていて Moodle に注目していたが、2004 年後半から同様のコースウェアである Xoops (ズoops) と比較・検討した後、自己管理のサーバ (Windows 2000 server と Mac OS X server) に最新バージョン(1.5.3)をインストールし、大学院レベルのコンテンツ・ベースの教育活動を開始し、現在に至っている。その導入経緯を最初に説明し、さらに主として大学院科目 3 つのケースでの 2005 年度の実践報告をした。それらは立命館大学大学院「言語教育情報研究科」の 3 地点(京都、大阪、滋賀)を結ぶ遠隔教育システムを利用した 2 科目 (言語情報学 IV - <http://www.tell.is.ritsumei.ac.jp/sleis4/> および異文化コミュニケーション II - <http://www.tell.is.ritsumei.ac.jp/nvc/>)、さらには非常勤で教えている京都ノートルダム女子大学大学院「人間文化研究科応用英語専攻」の 1 科目 (英語プレゼンテーション特論 - <http://www.tell.is.ritsumei.ac.jp/presen/>) における Moodle の構築サイト環境、具体的なコンテンツ構成、情報コミュニケーション活動と評価システム、アンケートの結果概要、遠隔教育上の問題点を含めた全体としての課題と解決策、過去一年間の利用実践を報告した。また、報告時間の制約もあり、教育活動内容については詳細に説明できなかったが、参加者の中には Moodle 実践者も数名いたので、簡単に実践内容を紹介してもらうなど質疑応答が活発に行われ、有益な情報交換ができた。近い将来、日本語の文字化け等のバグが解決される最新バージョン(1.6)が公開されるとのことで、より快適な利用が可能になり、さらに利用者が増えて行くものと思われる。

(文責 上村隆一)